

370) ^{ふるさと}故郷へ帰ろう

影絵のような街を過ぎると 夜汽車は白い荒野を走る
都会暮らしに見切りをつけて 僕は田舎に向かっています
息づまるよな街の日々より 自然の中で過ごせたならば
きっと優しい心になって 大きな愛に逢えるはず

負け犬だとか逃げ出したとか ^{ひと}他人は言うかも知れないけれど
自分の心 他人の心 そして家族を大事にしたい
都会の中で自分自身を 忘れたならば人間失格
哀しいけれどももう悩まない 辛かったけど今は満足

みちのくの冬寒いけれども 人間の心は暖かいです
みちのくの春遅いけれども 花がいっぱい咲き揃います
みちのくの夏何もないけど 祭りに大きな渦ができます
みちのくの秋忙しいけれど 豊かな^{とき}季節が過ぎてゆきます

ラッシュアワーの電車もないし タバコの煙にむせることなく
一杯飲み屋で愚痴^{ぐち}も言わない 日の出に起きて日暮れに帰る
親父とともに田圃^{たんぼ}に入り お袋さんと畑仕事する
そんな暮らしが僕には一番 似合っていると今気がついた

影絵のような街を抜け出し 夜汽車は北へ向かっています
都会暮らしをさらりとやめて 僕は田舎へ向かっています